



小・中学校における 体系的・一貫的な 進路指導に関する調査研究



県教育委員会では、平成21年度に「発達段階に応じたキャリア教育支援事業」をとおして、小・中連携による一貫したキャリア教育に関するプログラムの開発や地域に応じた取組を推進してきました。これを踏まえ、平成22年度から2年間「生徒指導・進路指導総合推進事業」の「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」として、実践に基づく研究を中心に取り組んできました。このパンフレットは、研究協力校の実践や宮城県進路指導推進協議会の提言等をもとに、各学校がキャリア教育を一層充実させるための参考資料として作成しました。

登米市立豊里小・中学校

- ◆ 学校所在地 〒 987-0362 登米市豊里町上町浦 100 番地
- ◆ 電話番号 (0225)76-2039
- ◆ F A X 番号 (0225)76-2156
- ◆ メールアドレス toyosato-syo@city.tome.miyagi.jp
- ◆ ホームページアドレス <http://www.tome-svr.jp/~toyosato-syo/>
- ◆ 児童生徒数

学 年	1	2	3	4	5	6	特	合計	7	8	9	特	合計
児童・生徒数	71	68	56	65	57	63	4	384	60	64	70	5	199
学級数	3	2	2	2	2	2	2	15	2	2	2	3	9

学校の概要

本校は、宮城県北東部「登米市」の南部に位置し、全校児童生徒数 583 名の中規模校である。平成 15 年 11 月 28 日に「小・中一貫教育特区」として認定を受け、平成 16 年度から年次進行で小・中一貫教育を進めてきた。平成 21 年度からは、「教育課程特例校」として認定を受け、校舎一体型小・中一貫校として現在に至っている。

調査研究のテーマ

メンタルフレンド等の外部人材の活用やピア・サポート等を通じた異年齢交流の取組等児童生徒の社会性を高める取組

過去 2 年間の成果と課題

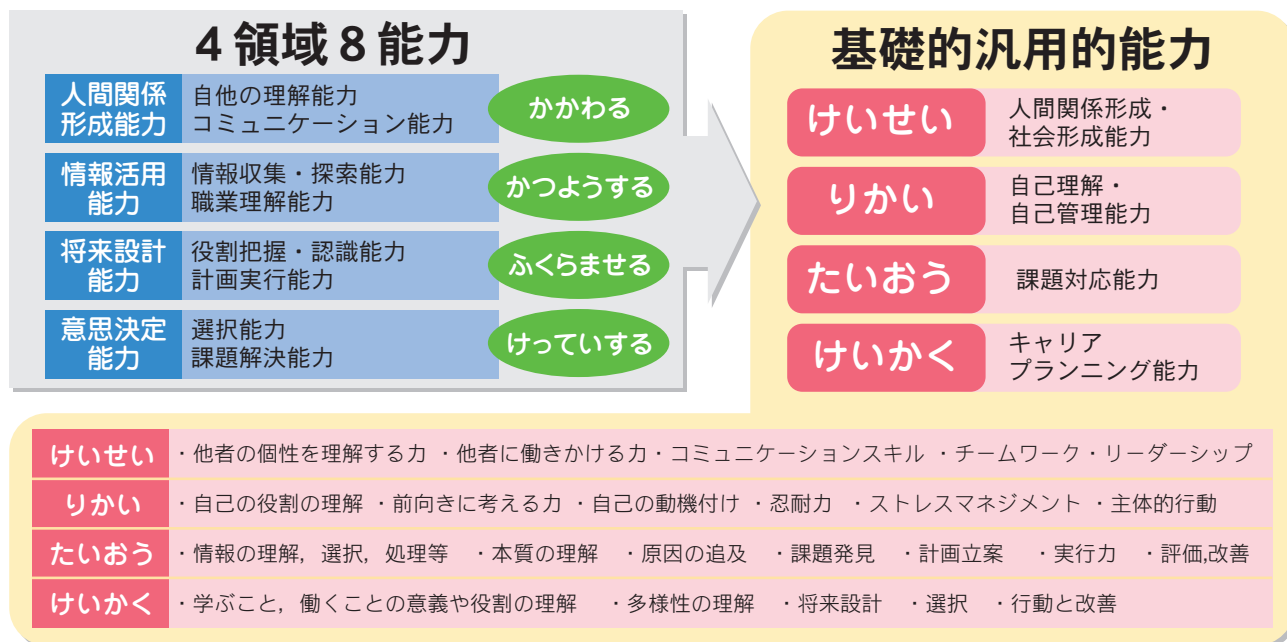
- 教師が各活動にキャリア教育の視点を意識しながら、意図的計画的に取り組ませたことで、子どもたちが、積極的に友達とかかわろうとする姿が見られるようになった。
- 4 領域 8 能力でキャリア教育を展開してきたが、社会人として求められる能力に少しずれがあるものもある。今後は、育みたい能力を見直し、体系化していく必要がある。

平成 23 年度の調査研究の内容

- 1 先進校視察と伝講
- 2 小・中 9 年の年齢差を意識した異年齢交流の機会の確保
- 3 農業体験・職場体験を中心とした外部人材の活用と外部の異年齢交流
- 4 小・中一貫校としての 9 年間を見通したキャリア教育全体計画の策定

「4領域8能力」から「基礎的汎用的能力」への見直し

キャリア教育で育みたい能力を「4領域8能力」から「基礎的汎用的能力」へと視点を変え、全体計画の見直しを図った。また、「基礎的汎用的能力」を4つの能力23の要素に分け、育成する能力や態度を具体的な姿として一覧表にまとめ活用したことにより、各活動を展開する上で、より意図的・計画的に実践することができるようになった。



「外部人材の活用と異年齢交流」の実践

○「全学年 農業体験活動」「第8学年 職場体験活動」

今年度は、農業体験活動と職場体験活動の中に、異年齢の外部人材と積極的に交流させ、「他者に働きかける力」や「コミュニケーションスキル」を高めさせていくという視点を盛り込んだ。

5・6年生の米づくりの農業体験活動では、田植えや稲刈りの指導に来ていただいたゲストティーチャーの方々に、「あいさつを元気に行うこと」「分からないことははっきりした声で質問すること」を目標に臨ませた。始めは、声をかけることに戸惑いを見せる子どもたちが多かったが、徐々に作業が進み気持ちがほぐれていくと、作業の仕方分からないことを積極的に質問したり、田植えをした感想を自分の言葉で伝えたりしている姿が見られるようになった。



【米作りを教えていただいた地域の方々】

「メンタルフレンド」を活用した学習活動の実践

○「第8学年 未来に夢を語る会」

8学年において、自分の将来に目標をもち、自己実現に向けて進んでいこうとする心情を養うために「未来に夢を語る会」を実施している。この会では、職場体験で感じたことや今描いている将来の夢を発表する他に、大学生の先輩（メンタルフレンド）を招き、話を聞いたり、質問したりする活動も行っている。大学生が、今真剣に取り組んでいる活動の発表は、生徒にとって初めて聞く話題が多く、自分自身が今まで考えたこともなかったものの見方や考え方に触れるよい機会となっている。また、大学生に質問する場面では、大学生が15歳のころに考えていた心の中の不安や悩みを聞くことによって、同じような不安や悩みは誰でももつものであることに気付いたり、今抱えている悩みが安らいだりする効果も得られている。



【テーマにそって意見交流をしている様子】

「異学年交流」の実践

○「第6学年 部活動って、何?」「第9学年 伝えよう部活動」

7年生から始まる部活動について、6年生が9年生から、活動内容を聞いたり、9年生が6年生に、部活動を通して得られたことなどを伝えたりする活動を実施している。今年度は、6年生に対して、部活動の目的と意義を理解することや目的意識をもち相手を意識して話を聞いたり、質問したりすることを念頭において臨ませた。また、9年生には、部活動で経験したことを分かりやすく伝えることや部活動での経験を振り返り、今後の進路選択に生かしていくことを意識して臨ませた。その結果、6年生は、聞きたいことを焦点を絞って具体的かつ積極的に質問する姿が見られた。事後の感想からは、「自分が聞きたいことを十分聞くことができ、部活動を始めるにあたっての不安が和らいだ。」という意見が多く聞かれた。また、9年生も自分が経験してきたことなので、実際の場面を例にとりながら、分かりやすく説明する姿が見られた。9年生の振り返りの感想からは、「自分の経験した話を、6年生が熱心に聞いてくれてうれしかった。」「つらいことや苦しいことがあったけれど、振り返ってみると、やり遂げてよかった。」など、自己肯定感や達成感を改めて感じている生徒も少なくなかった。



【6年生が9年生に質問している様子】

「ピア・サポート等を通じた異年齢交流」の実践

○「全学年 全校遠足」

秋に、1～9年生が16の縦割り班に分かれ、校区内の平筒沼まで全員で歩いていく全校遠足を実施している。片道が約5キロメートルと1・2年生には少し長い距離と思われるが、みんなで励まし合いながら歩く中で、忍耐強さや団結心などがはぐくまれている。

昨年度までは、遠足の実施計画の中に、キャリア教育の視点は盛り込まず、異学年交流の場として実施していたが、今年度は、キャリア教育の視点を盛り込んだ実施計画を作成し、活動を展開していくことにした。このことで、どの場面でどんな指導をすれば、キャリア教育に結び付いた指導ができるかが明らかになり、適切な指導や声掛けができるようになった。また、高学年の生徒にピア・サポート（児童・生徒同士が、支えたり励ましたりする）の視点を伝え、下学年に対してどのようにかかわったらよいのかを明確にしたことで、下学年に対する声掛けが具体的にできるようになった。振り返りの場面では、「低・中学年とのかかわりから得られた自分の存在意義」というテーマを与えて振り返らせたことで、自己有用感を高めることができた。



【鬼ごっこをして交流している様子】

3年間の まとめ

- 全体計画を「4領域8能力」や「基礎的汎用的能力」の視点で再構築したことにより、キャリア教育で指導していく視点がより明確になった。また、その視点を盛り込んだ年間指導計画を作成したことで、体系的・一貫的に指導できるようになった。
- 「キャリア教育と教科及び領域との関連一覧表」を活用することにより、総合的な学習の時間や学校行事だけではなく、道徳や各教科とも関連させながらキャリア教育を展開できるようになった。また、総合的な学習の時間や学校行事を展開する上で、キャリア教育の視点を取り入れた活動計画を作ったことにより、活動のどの場面でどんな指導をすればよいのかが明らかになり、キャリア教育として育みたい力を意図的に高めることができた。
- 今後は、キャリア教育と志教育との関連について研究を深めながら、教育活動全体を通して今まで以上に社会性をはぐくんでいきたい。

塩竈市立浦戸第二小学校・浦戸中学校

- ◆ 学校所在地 〒 985-0193 塩竈市浦戸野々島字馬越 8
- ◆ 電話番号 (022)369-2412・2008
- ◆ F A X 番号 (022)369-2277
- ◆ メールアドレス chief @ urato2-e.shiogama.ed.jp chief @ urato-jh.shiogama.ed.jp
- ◆ ホームページアドレス <http://www.urato-jh.shiogama.ed.jp/>
- ◆ 児童生徒数

学 年	浦戸第二小学校							浦戸中学校			
	1	2	3	4	5	6	合計	1	2	3	合計
学級数	0	1		1		1	3	1	1	1	3
児童・生徒数	0	1	4	1	3	3	12	4	10	1	15

学校の概要

本校は、塩竈市浦戸諸島の野々島に位置する。平成 16 年 9 月に「特認校」となり、学区外（島外）からも通学が可能になる。また、平成 17 年度の浦戸第二小学校の野々島移転に伴い、県内初の校舎一体型による小中併設学校として開設する。これにより小・中相互乗り入れ授業や、小・中合同の行事（運動会、浦戸合宿、演劇活動）など、一貫的な教育活動を日常的、継続的に行ってきた。島の豊かな自然環境のもと、保護者・地域の協力を支えられながら、校種を越えた学び合いや少人数による手厚い指導が本校の教育活動の大きな特徴となっている。

調査研究のテーマ

小・中学校における体系的・一貫的な生徒指導・進路指導の教育活動を実践するための全体計画・指導計画策定に関する取組を、授業実践や種々の活動を通して明らかにする。

過去 2 年間の成果と課題

- 様々な啓発的体験活動や学校行事を「キャリア教育」の視点で見直すことによって、児童生徒に自己有用感や自己肯定感を感じさせることができた。
- 日々の授業とキャリア教育の関連について授業実践を通して研究を行った結果、キャリア教育の能力領域を意識して授業することが、キャリア教育の実践であることを明らかにできた。
- 小・中学校の職員による協働的な取組により、本校独自の 9 年間を見通した生活面・学習面における指導の指針を明らかにすることができた。（「浦戸スタンダード」）
- 9 年間の教育活動を見通した全体計画「カリキュラム一覧表」を作成することができた。今後は、指導単元の一覧に関連するキャリア能力を加えていく。

平成 23 年度の調査研究の内容

- 1 小・中が連携して学校独自の活動や地域に根ざした体験活動を実践し、体系的・系統的にキャリア能力を育む。
- 2 前年度作成したカリキュラム一覧（義務教育 9 年間の教育活動を見通した全体計画）に新たに関連するキャリア能力を付け加え、より実践に生かすことができるようにするとともに、一層の自校化を図る。
- 3 校種間の連携をより一層推進するために、各校種の取組を共通理解する場を設定する。
- 4 授業研究におけるキャリア教育の位置付けを明確にし、これまでの実践結果を検証する。

学びを深める様々な体験活動

<職場体験・見学>

- 小学生は9月に塩竈市の魚市場の見学を行っている。また、1月には「海苔すき体験」を行い、地域の主要な産業に対する理解を深めている。
- 中学2年生は11月に職場体験学習を行っている。地域の保育園やホテル、水族館での経験を通して、働くことの大変さや喜び、意義そして達成感を味わい、自己有用感を獲得するなど多くのことを学んでいる。



【職場体験（保育所）の様子】

<礼法・作法体験>

- 11月にキャリア講演会と題して茶道の師範を講師に迎え、茶道の体験を行っている。茶道を通してお客様を迎える際の礼法・作法を学び、誠意をもって人に接する心を育んでいる。



【キャリア講演会（茶道）の様子】

<地域に根ざした活動>

- 地域の産業や自然を生かした体験活動に全校児童生徒で取り組んでいる。7月には浦戸宿学習を行い、小・中合同の縦割り班が浦戸四島に分散し、島を探索した。各島の名所や産業等を織り込んだ「浦戸カルタ」を作成し、地域のお年寄りの方と一緒にカルタ大会をして交流した。地域に根ざした活動を通して調べたことを分かりやすくまとめる力や活動全体を見通して行動する力を育んでいる。



【小中縦割り班での島探検】

<小・中合同の活動>

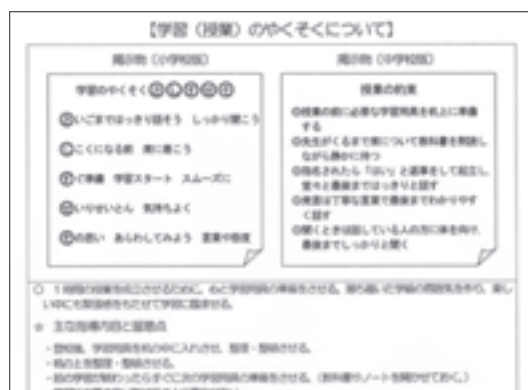
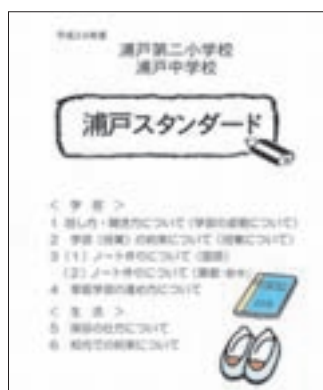
- 運動会や文化祭を小・中合同で実施し、児童生徒が一緒になって行事をつくり上げている。特に「演劇活動」では地域を題材に取り上げたオリジナル脚本をもとに練習し、文化祭や市のホールで公演している。外部講師に招いた劇団の方々から本格的な演技指導を受け、自己の課題を克服していくとともに、地域の「よさ」を再発見し、発信しようと努めている。



【全校児童生徒による演劇活動】

9年間を見通した教育の中で「生きる力」を育む

- 小・中における生活・学習の指導に一貫性をもたせるために「浦戸スタンダード」（本校独自の指導規準）を作成・運用している。ノートの取り方や授業の約束、あいさつの仕方などについて、小・中間で揃えたい部分、発達段階に応じて変えていく部分を全職員で共通理解し、指導に当たっている。



教科の授業とキャリア教育との関連

- キャリア教育の4つの能力領域の視点を押さえた授業展開がキャリア教育の実践につながっていく。本校では各教科において小・中9年間の題材・単元一覧を作成し、関連する能力領域を明示している。

月	小学3年					小学4年					小学5年					小学6年					中学1年				
	人間関係	情報活用	将来設計	意志決定		人間関係	情報活用	将来設計	意志決定		人間関係	情報活用	将来設計	意志決定		人間関係	情報活用	将来設計	意志決定		人間関係	情報活用	将来設計	意志決定	
4月						大車からくらしを守る			○		世界の中の国と			○		縄文の心から古墳の心へ		○	○		「歴史」「歴史の流れ」		○	○	
5月	学校のまわり	○				車道や歩道からくらしを守る			○		国土の地形の特色と人々のくらし				○	天皇中心の国づくり			○	○	「地理」「世界のすがた」				○
6月										○	国土の気候の特色と人々のくらし				○	武士の世の中へ、今に伝わる「室町文化」			○		「歴史」「古代までの国と文化」「文明の起こりと日本の成り立ち」				○
7月	市の様子		○			水はどこから			○		米づくりのさかんな江戸平野	○		○		戦国の世から江戸の世へ			○	○	「地理」「日本のすがた」「自然の恵みから見た日本の位置」				○
8・9月						ごみのしよりと利用			○	○	水産物のつかいこなす新産業		○		○	江戸の文化と新しい学校			○	○	「歴史」「古代までの日本」「近代国家のあゆみと東アジアの動き」				○
10月	道でぼたろく人			○						○	これからの食料生産とわたしたちの暮らし		○		○	明治の国づくりと進められた人々の世界に歩み出した日本				○	「地理」「日本のすがた」「自然の恵みから見た日本の位置」				○



【小・中縦割り班での浦戸カルタ作り】



【職場見学（魚市場）の様子】

3年間のまとめ

- 学校や地域の特性を生かして行う啓発的体験活動や学校行事を通して、児童生徒にキャリア発達を促すことができた。今後、校種、学年による発達の段階に応じた課題を意図的に指導に反映させていくことが求められる。
- 小・中学校の職員による協働的な取組と、指導の方向・理念を自校化したカリキュラムや指導の手引き（「浦戸スタンダード」）として共有することは、キャリア教育推進の基盤となった。また、本校の特徴である施設一体型の小・中連携は、キャリア教育を系統的・発展的に指導・実践する上で大変有効であることが実感できた。
- 授業研究を通して、各教科とキャリア教育の関連について明らかにできた。各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間など全ての教育活動を総合して、横断的・総合的にキャリア能力を育んでいくことが大切である。
- キャリア教育の実践と評価を検証し、充実した取組を継続するためには、校内組織を整備したり、校内研修を充実させたりするなど、教育活動に位置付けることが必要である。

宮城県進路指導推進協議会から「キャリア教育推進への提言」

1 様々な教育活動のつなぎ方を工夫すれば、社会性の育成と学力向上につながります。

- 今まで行ってきた様々なキャリア教育の活動を洗い出し、児童生徒の「目指す姿」や「付けさせたい力」を視野に入れ、意図をもって体系的・系統的に構成しましょう。
- キャリア教育における体験的な学習と各教科等の学習を関連付けることによって、社会性の育成とともに活用する力の伸長も図ることができます。

2 児童生徒自らが企画する活動は、成長を促します。

- 研究実践校の豊里小・中学校では、取組に応じてリーダーを構成しています。自分で考え、判断し、行動することを大切に、児童生徒が企画する活動（志教育の「はたす」を意識した活動）を取り入れましょう。
- 地域の特性を生かした体験活動後に、まとめや分析までを児童生徒が行うことで、新たな課題に気付くこととなります。その解決方法を考え、行動することが、児童生徒の成長を促します。

3 一貫性のある指導が、発達段階に応じたキャリア教育につながります。

- 「浦戸スタンダード（生活・学習の指導規準）」のように、小・中学校それぞれすべきこと、できることを発達段階ごとに整理し、指導に一貫性をもたせることは、発達段階に応じたキャリア教育につながります。
- 取組の成果がすぐに表れるとは限りません。実践を長期に継続させる工夫をしながら、今取り組んでいることを着実に実践することが大切です。

今こそ「みやぎの志教育」です！

- 「みやぎの志教育」は、小・中・高等学校の全時期を通じ、人や社会とかわる中で、社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めることを促す教育です。
- 宮城県教育委員会では、郷土の復興・再建に力を発揮できる人づくりを視野に入れ、「みやぎの志教育」を重点的取組として位置付けて推進していきます。

宮城県進路指導推進協議会委員

菊池 武剋（日本キャリア教育学会会長）	高橋 長浩（塩竈市教育委員会副参事）
本図 愛実（宮城教育大学准教授）	岩淵 公一（登米市立豊里小学校教諭）
中山 聖子（NPO法人ハーベスト代表理事）	鎌田 実（塩竈市立浦戸第二小学校教諭）
林 毅（宮城県経済商工観光部産業人材対策課長）	菊地 正美（東部教育事務所登米地域事務所次長）
千葉 整（登米市教育委員会活き生き学校支援室長）	大竹 春生（仙台教育事務所次長）

発行 宮城県教育委員会
事務局 宮城県教育庁義務教育課指導班
宮城県仙台市青葉区本町 3-8-1
TEL 022-211-3646 FAX 022-211-3691
E-mail gikyou@pref.miyagi.jp